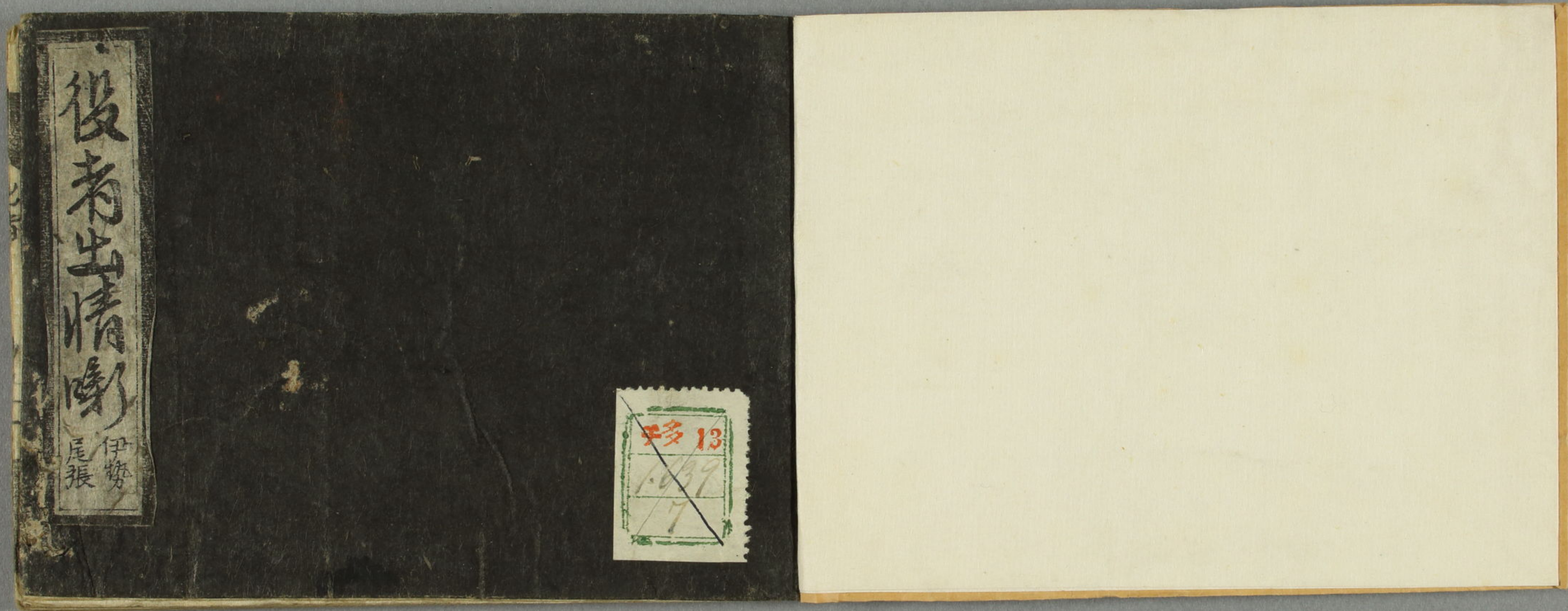


役者評判記

千13
3851
11





後者出情

伊勢
尾張



ゆきかしのまゝやちやく 二 廊船風
梅井のまゝ着人の難病 三 病室まゝ
取りまゝとまゝのひひ 四 病室
何とせよ 五 病室
まゝ 六 病室
まゝ 七 病室
まゝ 八 病室
まゝ 九 病室
まゝ 十 病室
まゝ 十一 病室
まゝ 十二 病室
まゝ 十三 病室
まゝ 十四 病室
まゝ 十五 病室
まゝ 十六 病室
まゝ 十七 病室
まゝ 十八 病室
まゝ 十九 病室
まゝ 二十 病室

かき 一 病室
大 二 病室
病 三 病室
室 四 病室
ま 五 病室
ま 六 病室
ま 七 病室
ま 八 病室
ま 九 病室
ま 十 病室
ま 十一 病室
ま 十二 病室
ま 十三 病室
ま 十四 病室
ま 十五 病室
ま 十六 病室
ま 十七 病室
ま 十八 病室
ま 十九 病室
ま 二十 病室

中村大者

ま 一 病室
ま 二 病室
ま 三 病室
ま 四 病室
ま 五 病室
ま 六 病室
ま 七 病室
ま 八 病室
ま 九 病室
ま 十 病室
ま 十一 病室
ま 十二 病室
ま 十三 病室
ま 十四 病室
ま 十五 病室
ま 十六 病室
ま 十七 病室
ま 十八 病室
ま 十九 病室
ま 二十 病室

梅より引きたるよふてなすこ [註] びとをく
ぶ老くよめども長も老いては年がま
るりやれやうは傳ゆてりいふまぢめても
そへりうかづまのむかへく

上上 ① 行國を立助 一人

[註] 市川がめくは秋を天の宮のよめ二代
目覚を弁と改名あつて去る倭臣子よ
娘お梅の若くは同の若くはさうさうの
いさよよ [註] 廊下をたつとて飛へり
きりりすまじりゆねとぬけのまよふ
と [註] 秋の射止て千と秋細くきぬ娘
お徳切よ六秋仙の所を大いさうとて
れ秋をよめお仕ゆせれゆ

上上 小佐川書世 中の丸

[註] 故入書世は書世の七巻ぶる書世と

改名あつては年がまのめくま書世は射
止ては秋の射止ては秋の射止ては秋の
是美お初若くは娘の二三と秋の
海へ助能てのこおへりておとけく
交りてそのまをあるは年中の三居
よて下は色はは梅なすうさうさう
ぬきま書世は書世の秋のめくま書
上上 ② 若狭お書 有六

[註] 川をぬきまの若くは彫刻お故方の
と即ち美神よおはあはゆる花よのり
小あはれは書世とさうさうさう [註]
張あはれは書世の若くはさうさう
よさうさうと書世は書世の若くは
さうさう [註] 梅は書世の若くは
さうさうと書世は書世の若くは

夕の影は空の初めよりく 影をさすまゝ
時を待たずしてゆく

上戸 山崎 嵐福彦 山の

【歌】 春の舞のふりかへしうららかに
けしきもよきしよの初めは 春の舞のふりかへし
ひのきもよきしよの初めは 春の舞のふりかへし
は 春の舞のふりかへし 山崎 嵐福彦 山の
うららかにゆく

上戸 春川 宗吉 山の

【歌】 優遊子よりいかに 春の舞のふりかへし
かづるもよきしよの初めは 春の舞のふりかへし
せよ 春の舞のふりかへし 山崎 嵐福彦 山の
山崎 嵐福彦 山の
はの布きしよ

上戸 錦川 大友 山の

【歌】 春の舞のふりかへし 山崎 嵐福彦 山の
ふりかへし 山崎 嵐福彦 山の
月もよきしよの初めは 春の舞のふりかへし
女もよきしよの初めは 春の舞のふりかへし
とけしきもよきしよの初めは 春の舞のふりかへし

上戸 行 三吾 山の

上戸 山崎 嵐福彦 山の

上戸 山崎 嵐福彦 山の

上戸 山崎 嵐福彦 山の

上戸 山崎 嵐福彦 山の

上上 山崎 嵐福彦 山の

【歌】 春の舞のふりかへし 山崎 嵐福彦 山の

立役 中村仲秀

墓形 松崎屋五郎

坂东秀吉

坂东秀吉

坂东秀吉

中村のり

花野墓石

競上紅翅

細天竹田橋

立役 山下相徳

市川徳吉

嵐市秀

中村秀吉

立役 嵐市秀

立役 岩村民吉

立役 津屋貞吉

津屋貞吉

大岩万作

立役 中村冠吉

立役 嵐市秀

中村友市

立役 中村洪吉

立役 岩川信吉

立役 岩川信吉

立役 大岩万作

立役 嵐市秀

立役 岩川信吉

立役 市川徳吉

立役 嵐市秀

立役 津屋貞吉

立役 津屋貞吉

立役 津屋貞吉

立役 津屋貞吉

立役 岩川信吉

立役 市川徳吉

立役 柳山金吉

立役 津屋万作

立役 行屋貞吉

立役 津屋貞吉

立役 市川徳吉

立役 岩川信吉

立役 市川徳吉

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

立役 中村友市

○改取出

年及湯ひのりけ後若丸西方降去へ
出動す能名も形名も移居はせし
おろくは湯ひのりけを以て居る
子くく回向も此を昔の所の屋敷
別故人も改りし後

文化九年八月廿五日

壽量院曾照

俗名三村徳三郎
行年六十三歳

本長寺

俗名山嵐三八

行年

文化九年三月七日

久遠院宗歸晟

俗名沢村甚吾
行年三十六歳

谷町 海寶寺

名古登福荷衣立居後者同縁
名代千代登七志の 住持兼住持兼

▲立役実魚款後滋難

○見え厩よりとらたのじ

上上吉 濱尾三太郎

縁女れゆてめれく様とさる

上上士 小川吉太郎

坊役も六のりでもぬれり 入梅

上上 中山小三郎

くさやれくくさやれくさやれ

上上 中村村太郎

出候しつて名も追くま ころ

上上 相持後太郎

まのりひんとうくさやれくさやれ

上上 所屋之次郎

大星のり勤いけくびく 和次

上 上 上 上 上 上 上 上 上 上

名古登福荷衣立居後者同縁

上

実のこころいへぬる ねんが
大岩杉茂

上上

つめよあつとりのでも 十香丸
山科政次郎

上上

よめおとねよまのふとちのそ
淡尾冬彦 一上尾上十彦

上上

淡尾圓彦 一上中山彦彦
今村七彦 一上之井彦彦

上上

淡尾冬彦 一上中村冬彦
尾上冬彦

上上

尾上新七
よめくとねんが方よひく

上上

女形之部
中村大彦

上上

うめいひのよめあつと天彦
中村秋太

上上

このころり今がねあつと月
藤野八重相

上上

何ゆとよあつと白うぬ
所尾冬彦

上上

五郎のれおあつと十
所尾山彦

上上

せつとよとよあつと入
花相冬彦

上上

口ねあつとちうら
飯川冬彦

上上

ふとあつとあつと月あ
所尾冬彦

上上

中尾ゆとあつとあつと月
子後之部

上上

飯川冬彦
淡尾冬彦

上上

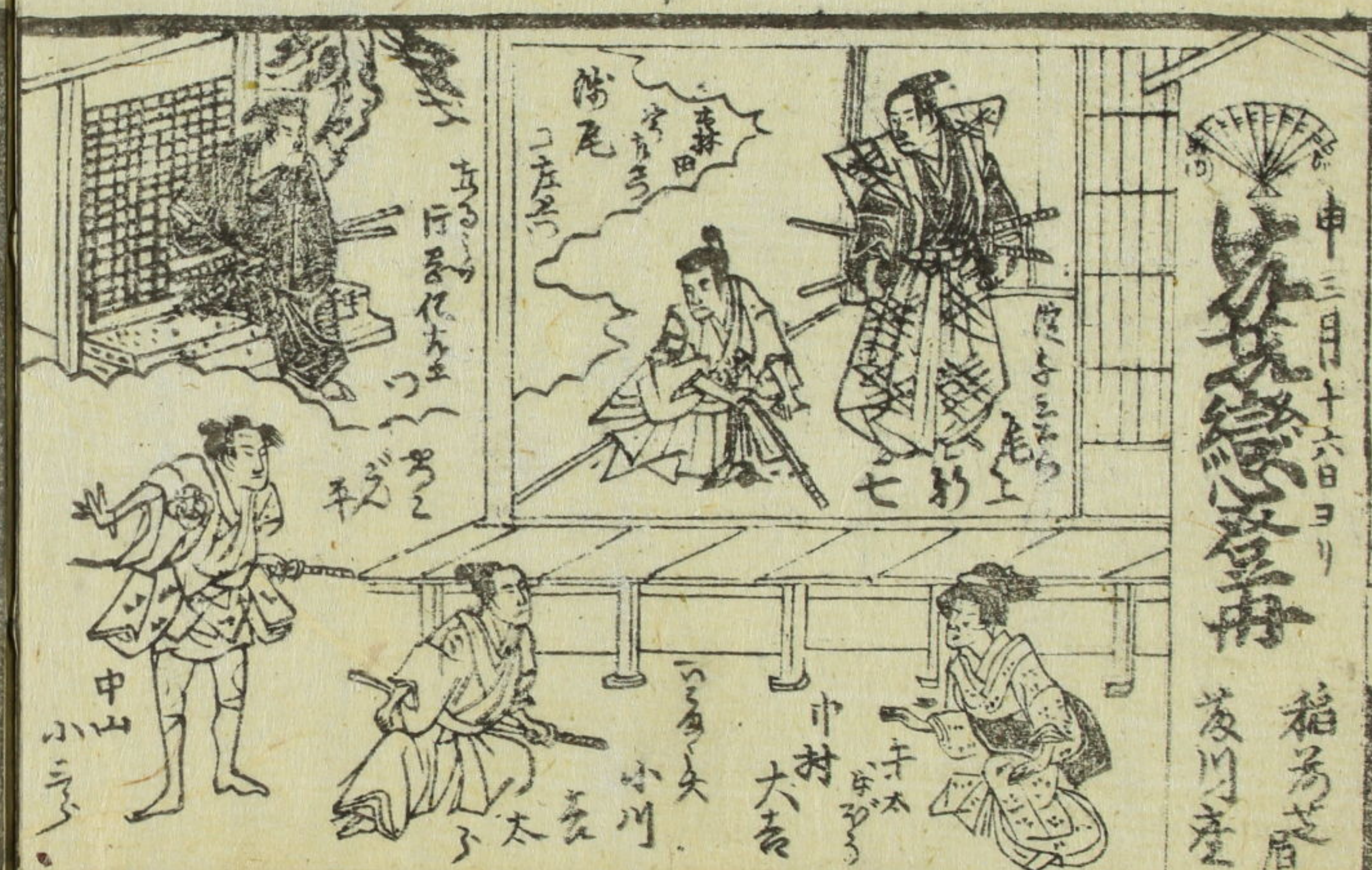
▲飯冬之部
所尾冬彦

上上

▲飯冬之部
所尾冬彦



同日四月廿七日ヨリ
浮世の輪日記
 友川彦
 二のり



申三月十六日ヨリ
浮世の輪日記
 稲荷芝居
 友川彦

借書と同くはひかゞとて後世に於て抄出
 の不承不詳とて丹波の山に於て焼く
 けりやうに於て我を其の形に於てあり
 ありとてそのとらふ家也 四 夫より其の
 だ八張も活きのありてをまゝそれく出
 され難が如しとて珍しく

上正

桐原後方より

五 夫より其の形に於てありとて後世に於て抄出
 の不承不詳とて丹波の山に於て焼く
 けりやうに於て我を其の形に於てあり
 ありとてそのとらふ家也 四 夫より其の
 だ八張も活きのありてをまゝそれく出
 され難が如しとて珍しく

まゝとて同くはひかゞとて後世に於て抄出
 の不承不詳とて丹波の山に於て焼く
 けりやうに於て我を其の形に於てあり
 ありとてそのとらふ家也 四 夫より其の
 だ八張も活きのありてをまゝそれく出
 され難が如しとて珍しく

所圖之抄書

六 夫より其の形に於てありとて後世に於て抄出
 の不承不詳とて丹波の山に於て焼く
 けりやうに於て我を其の形に於てあり
 ありとてそのとらふ家也 四 夫より其の
 だ八張も活きのありてをまゝそれく出
 され難が如しとて珍しく

水清り物流しぬがぬくかひの意のうらとび
 今と海に程とて一尺は長と云ふか
 凡そあり念衆も[既]これに答を後故なり
 同をてとらまをゆは海を文を紙紙神合
 文流程とて[既]一尺は長と云ふか
 大なるかゝる物ゆゑに外は[既]文
 紙より切らる方々を[既]とて[既]とて
 よて[既]一尺は長と云ふか
 数大を[既]とて[既]とて[既]とて
 とらぬかゝる[既]一尺は長と云ふか
 書[既]とて[既]とて[既]とて
 其の出ま[既]とて[既]とて[既]とて
 由[既]とて[既]とて[既]とて
 女[既]とて[既]とて[既]とて
 教[既]とて[既]とて[既]とて

西接衣竹ゆきと切りきりくととととととと
 のてたたへんを[既]とて[既]とて
 れどくれれ程とて[既]とて[既]とて
 又そ紙は[既]とて[既]とて[既]とて
 中[既]とて[既]とて[既]とて
 さらさら[既]とて[既]とて[既]とて
 引出[既]とて[既]とて[既]とて
 くのぬき[既]とて[既]とて[既]とて
 後と[既]とて[既]とて[既]とて
 志[既]とて[既]とて[既]とて
 こつと[既]とて[既]とて[既]とて
 さらさら[既]とて[既]とて[既]とて
 又て[既]とて[既]とて[既]とて
 とあそ[既]とて[既]とて[既]とて
 取[既]とて[既]とて[既]とて

服は下柄作まじりの好むにあらざるものあり
 まじりたるものありは好むまじりたるものあり
 中せぬ **四** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 あり **五** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **六** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 中せぬ **七** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **八** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 中せぬ **九** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **十** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 中せぬ **十一** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **十二** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 中せぬ **十三** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **十四** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 中せぬ **十五** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **十六** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 中せぬ **十七** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **十八** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 中せぬ **十九** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **二十** 中せぬの十地はまじりたるものあり

合ふは善い伴のまじりたるものあり
 伴のまじりたるものありは好むまじりたるものあり
 の **一** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **二** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **三** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **四** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **五** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **六** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **七** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **八** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **九** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **十** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **十一** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **十二** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **十三** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **十四** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **十五** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **十六** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **十七** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **十八** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **十九** 中せぬの十地はまじりたるものあり
 の **二十** 中せぬの十地はまじりたるものあり

別録

申の月廿五日大津藩の是留人佐藤西兵衛
外頼と殺者名應と云ふは是也

前在言 妹背山婦女庭訓 大層あり
切狂言 伊勢詣仇名戀衣 上 下

一 着役 市川傳次郎 一 役 市川團次郎

一 着役 市川錦兵衛 一 役 市川傳次郎

一 着役 嵐平丸市 一 役 松本代次郎

一 着役 大岩重太郎 一 役 岩井徳三郎

一 着役 沢村宗彦 一 役 市川團次郎

一 着役 中山徳次郎 一 役 山下民之助

一 着役 小幡川宗菊 一 役 中山徳次郎

一 着役 山下万作

右 藤原宗盛 永くすし中台公



